

特別の教科道徳 全学年 「偏見や差別をなくすために」

<生徒の感想>

正しい情報を知り、偏見や差別をもたず、本人と自分を重ね合わせて考え、相手の気持ちに寄り添うことが大事だと気付いた。

偏見や差別などをこの世の中から少しでも減らしたいと思える授業だった。被爆者の悲しみを共有しようと思った。

人間は知らないものに対して恐怖心を抱く生き物であり、それが悲劇を生んでしまうことがある。だからこそ私たちはそれを自覚して、悲劇が繰り返されないように心掛ける必要がある。

差別をする人に対して、ただ怒るのではなく、きちんと向き合っていくことが未来のためになると思った。

偏見や差別は「無知」によってもたらされる。だからこそ正しい知識を身に付けることが大切だと感じた。

人の妬みは人間に本質的なことを忘れさせてしまう。たとえ過去に被害にあった人でも容赦なく人を中傷するような人間にしてしまうのが恐ろしいと感じた。

差別のない社会を創るためには、あきらめずになくそうし続ける姿勢が大切だと思った。

偏見や差別をなくすためには、偏見や差別に対しみんなが小さな「NO」を送り続けることが大切だと感じた。

相手のことを知ろうとすることで偏見や差別はなくなると思った。

「どうしたらいいのか」を考え続ける姿勢が大切だと思った。

うわさなどは信じないようにしようと思った。